

素案

右京区基本計画



平成23年 月
右京区役所

Ⅰ 右京区基本計画とは

1 はじめに

(1) これまでの経緯

平成 11 年 1 2 月に策定された「京都市基本構想（21 世紀・京都のグランドビジョン／目標年次 2025 年）」の基本的な理念やまちづくりの方向性を踏まえ、右京区においてその具体化を図っていくため、平成 13 年 1 月に前「右京区基本計画（右京来夢らいと計画 21／目標年次 2010 年）」を策定し、この計画に基づいて、地下鉄東西線の太秦天神川への延伸、サンサ右京の開設、右京ふれあい文化会館の開館、右京区まちづくり支援制度の創設等多くの具体的施策が実現してきました。

(2) 策定の意義

前計画は平成 22 年をもって 10 年の計画期間を終えること、また前計画が策定された 10 年前から社会経済環境は大きく変化していることから、新しい時代にふさわしい基本計画を策定することになりました。

2 計画の位置づけ

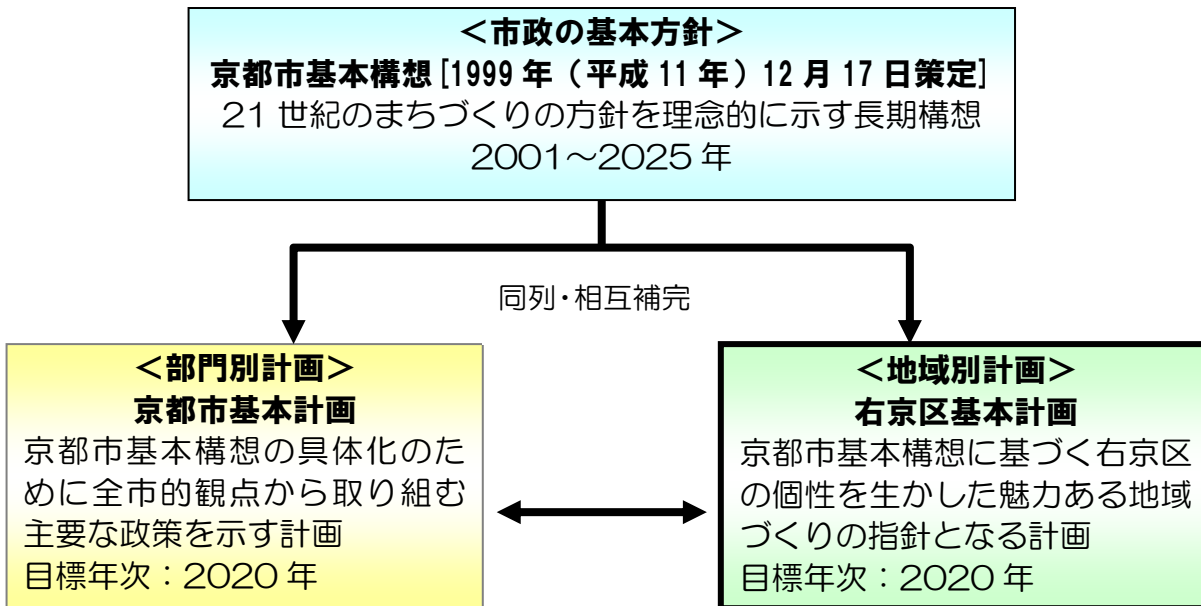
(1) 計画の位置づけ

この「右京区基本計画」は、右京区の将来の姿や目指すべき方向を、区民や事業者のみなさん、そして行政が共有するための中期ビジョンとして策定します。それは具体的な取組内容について、誰が、いつ頃までに取り組むのかをできるだけ明らかにすることで、区民・事業者・行政それぞれが取り組むこと、そして協働による取組の進め方を具体的かつ明確にし、目標実現のための道筋や方策を示す指針としていきます。

新「右京区基本計画」は、全市的な課題と施策を具体化する京都市基本計画（平成 22 年度策定）と相互に補完しあう計画であるとともに、市基本計画とは異なる身近な特性を盛り込んだ創意ある方策も示すものです。

(2) 計画の期間

計画期間は平成 23 年度から 32 年度までの 10 年間とします。



3 策定の経過

(1) 右京区基本計画策定委員会

計画の策定にあたっては、右京区内の各種団体、市民公募委員及び学識経験者等、21名の委員により構成される右京区基本計画策定委員会が、右京区長からの諮問に依りて、計画の策定に向けた調査及び審議を行いました。

また、審議にあたっては、専門的かつより深い議論を行うため、策定委員を構成員とする以下の3つの部会を設置して検討しました。

- 豊かな自然と歴史文化のまちづくり部会
- 地域活動と安心安全のまちづくり部会
- 魅力ある都市環境のまちづくり部会

(2) 右京区住民円卓会議

区民のみなさんの意見を十分に反映した計画とするため、右京区を4ブロックに分けて意見を出し合う、右京区住民円卓会議を設置しました。各地域から総勢78名の委員に参加してもらい、地域の幅広いニーズや課題を把握しました。その結果は各ブロック長が策定委員として計画策定に関わることを通じて、基本計画に反映させました。

(3) 区民意見募集

計画策定にあたっては、平成22年7月15日～8月31日に、市民しんぶん右京区版及び区役所ホームページにおいて、「右京区基本計画素案」を公表し、区民意見を募集して、基本計画に反映させました。

II 右京区のまちの姿

1 右京区の概要

右京区は京都市の西部，桂川の東岸に位置しています。

平成 17 年 4 月 1 日の旧京北町の編入により，区域面積は 291.95 km²を有し，また人口も 20 万人を超える市内最大規模の行政区となりました。

区域の南部は京都盆地の一角を占める平野部に，また北部一帯は自然豊かな山間地域となっています。南部の平野部は，主に四条通り以南については土地区画整理事業により道路・公園等の都市基盤整備が終わっていますが，四条通り以北は，都市基盤整備が不十分で，密集した市街地となっています。

2 右京区の特徴と課題

右京区には，性格が異なる市街地や集落が存在していることから，それぞれの地域が持つ資源や特性が異なっており，自慢できる様々なよい面を持っている一方で，地域住民等が直面している課題も異なっています。

(1) 豊かな自然環境に恵まれた右京区

右京区は，北部山間部から山麓部にかけて，森林と農地が大半を占めており，豊かな自然に恵まれた環境となっています。京北地域では北山杉による林業が盛んであり，水尾地区の柚子，宕陰地区の棚田等，特徴ある農業が営まれています。また山麓部や平野部の市街地内にも農地が多く残っている地区があり，都市近郊農業が営まれています。

しかし，これらの北部山間部等は，右京区の中でも少子高齢化が進んでいる地域でもあり，地域コミュニティを維持することが課題となってきました。また，後継者不足から地域の農林業を継続していくことも課題となっており，結果として田畑や山林が放置され，良好な自然環境を保全することも難しくなってきました。



京北地区の北山杉



宕陰地区の棚田

(2) 産業や暮らしを支える都市基盤の充実した右京区

区域南部の平野部のうち、四条通り以南の市街地については、土地区画整理事業による都市基盤整備が完了しており、西京極運動公園等の大規模な公園施設も整備され、伏見区に次いで市内第2位の製造品出荷額等を有する工業地域を形成しています。また、公共交通機関を含めた利便性のよさから、近年はマンション等の立地も進んでおり、人口も増加傾向をみせています。

これらの地域の中には、住工混在の市街地が形成され、環境面での課題が生じていたり、マンション建設等を契機に新しい住民が流入したことにより地域コミュニティの結束力が低下する等の課題を抱えている地域もみられます。



市民のレクリエーションの場となっている
西京極運動公園



飲食店の増加等により賑わっている西院地区

(3) 美しい景観が守られてきた右京区

右京区には、北山から西山にかけての山麓部を中心に、歴史文化資源が多数立地し、山々の緑と調和して風光明媚な美しい風景をつくるとともに、その周辺に良好な街並み景観を有する戸建て住宅地が形成されています。また、北部山間部の宕陰地区では、棚田や茅葺き屋根の民家による美しい集落景観が形成されています。その他にも、市街地内の生産緑地等の農地が市街地内の景観に緑の潤いを与えています。

これらの美しい景観のうち代表的なものは、歴史的風土特別保存地区や歴史的風土保存区域、風致地区、自然風景保全地区等の法規制により一定保全されていますが、規制の内容が緩やかな地域も多く、その保全が課題となっています。



嵯峨鳥居本のまち並み

(4) 歴史と文化に育まれた観光の地としての右京区

北山から西山にかけての山麓部を中心に、風光明媚な自然資源や歴史文化資源が多数立地しており、これらの嵯峨・嵐山地域、太秦地域等は京都を代表する観光地となっています。

これらの地域は、観光シーズンには、多くの人々が訪れて賑わう一方、地域住民にとっては、



観光客で賑わう嵐山地区

交通渋滞の発生や、落ち着いた日常生活を送れないなどの課題があります。

(5) 安心して暮らせる環境整備が進む右京区

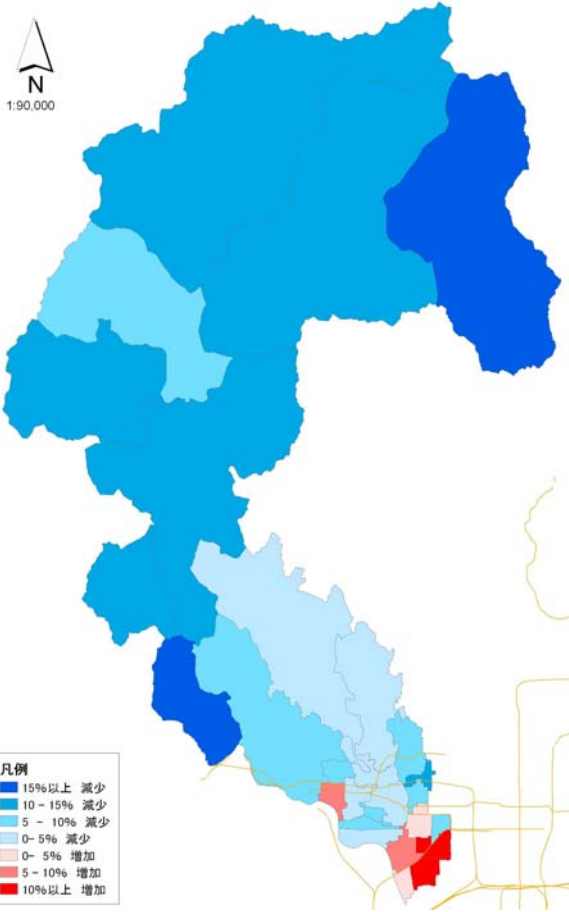
区域南部の平野部のうち、四条通り以北では、道路整備が不十分で、住宅地がスプロール的に広がる密集市街地が多くなっています。これらの地域では、主要道路への交通集中と交通渋滞の発生、生活道路への通過交通の進入、緊急車両のアクセスが困難等の課題を抱えています。

しかし、近年は太秦東部地区での地下鉄延伸とあわせた都市基盤整備とサンサ右京の整備、太秦西部地区や山ノ内地区での都市基盤整備や拠点整備の取組等、住民と行政の協働によるまちづくりが進展しています。

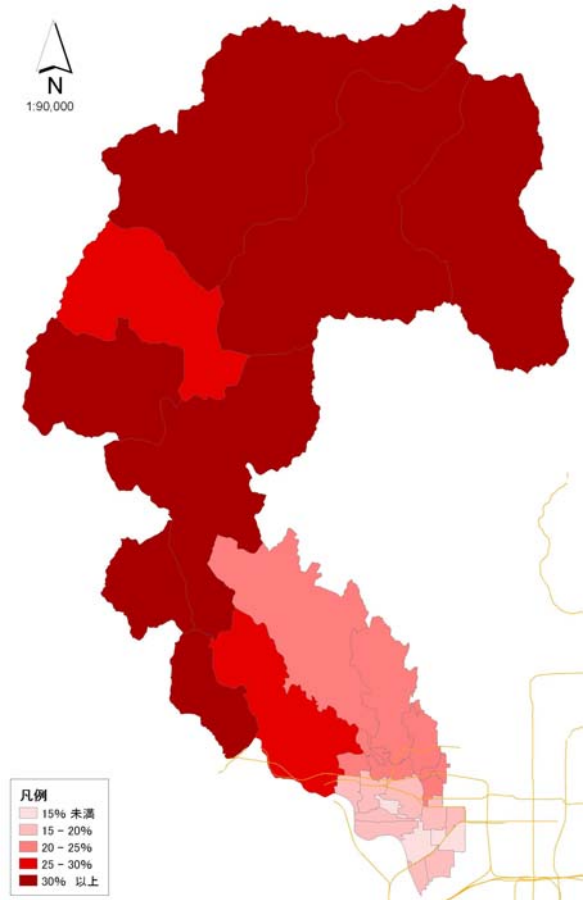


たくさんの機能を持つサンサ右京

右京区の地域別人口増減率(平成12~17年)



右京区の高齢化率(平成17年)



Ⅲ 右京区の将来に向けて（考え方と将来像）

今回の計画を表すキャッチフレーズ

（今後、策定委員会で決定）

1 計画の基本姿勢（計画づくり、計画推進の考え方）

（1）暮らしの価値観を変えてみよう！

観光シーズンの交通渋滞や、農林業の衰退等、右京区が現在抱えている課題を解決していくためには、時代の変化に合わせた新しい価値観に基づく生活スタイルに共感する区民や来訪者を増やしていくことが重要です。必要以上にクルマに頼らず、心のゆとりを大切に、地域の産業、伝統文化、自然環境を守り育てるとともに、右京区が有する様々な資源をうまく組み合わせることで、右京らしい魅力的なライフスタイルを提案し、地域住民が健康で安心・安全でにぎわいがあり、会話がはずむような豊かな生活の実現を図っていきます。

また、取組を進めるにあたっては、これまで課題とされてきたものを右京区の将来に向けた資源にしていくために、物事に対する従来の視点を変え、そして発想を柔軟にすることを大切にします。これまで区民が取り組んできたまちづくりの成果や経験などを生かし、新しい取組を生み出す地域の力を大切にしていきます。

（2）地域ごとに特徴ある方向性を考えよう！

右京区は、資源や特性、現在直面する課題が異なる多様な地域で構成されているため、地域特性と独自性を生かした個性ある取組や活動の実現に努めます。また、それぞれの地域が持つ個性や魅力をさらに生かし、また取組の波及効果を大きくするために、幅広い地域間での連携も積極的に図っていきます。

（3）良いところをほめることから始めよう！

右京区は、世界に誇れる地域資源を多数有しており、隠れた資源がまだまだたくさん埋もれています。まずは、地域の中から自慢できるまちの良い所を見つけ出し、それを褒めたり、誇りに感じることから、まちづくりは始まります。そうした取組を通じて、地域住民のまちづくりへの意欲が高まり、参加も広がり、地域の魅力の効果的なPRにつながっていきます。

2 右京区が目指す将来像

将来に向けた右京区のまちづくりには、右京区の恵まれた自然環境、受け継がれてきた歴史や文化、地域を支えるコミュニティの力など、右京区のもつ多様な資源を活かしながら、地域の抱える課題の解決に向けて取り組んでいくことが重要です。

そのためには、先に挙げた「基本姿勢」とともに、さまざまな専門分野を横断する視点を持ちながら、区民・事業者・行政などの多様な主体が協働して取組を進めることが不可欠です。

ここでは、以上のことを踏まえ、多様な主体が協働によって取組を進める際のよりどころとなるもの、今後の目指すべき方向を表す「今後10年間で右京区が目指すべき将来像」を以下のように設定します。

将来像① 豊かな自然・文化を受け継ぐまち・右京

受け継いだ自然・歴史・景観を活かし、新しい産業や暮らしが始まるまち

右京区には、多くの自然資源と歴史文化資源、個性豊かな景観を有する景勝地等が数多く分布しており、これらは世界各地から多くの観光客を惹きつける貴重な宝物となっています。またこうした宝物の多くは、環境と共生する暮らしや生業によって支えられ、紡ぎ出されてきました。私たち区民は、こうした先人から受け継いだ資産を守り育て、次世代に継承していく責任を負っています。

そこで、これまで受け継いできた貴重な右京の宝物を、誇りと自信を持ちながら見つめ直すとともに、自然・歴史・景観と一体となった新しい暮らしや産業を育み、次世代に引き継いでいくまちを目指します。

将来像② 楽しく歩けるまち・右京

区民の力でつくる、歩いて楽しいまち、楽しく歩けるまち

各地域で高齢化が進むなか、高齢者をはじめ誰もが住みやすく、安心して暮らせるような道路等の都市基盤整備や施設機能の立地、公共交通体系の整備等の環境整備が求められています。

そこで、従来からの価値観の転換を図り、クルマ中心社会から脱却して、地域住民や観光客、若い人からお年寄りの誰もが、自転車・鉄道・バス・歩く・自動車を地域によって適切に組み合わせて生活でき、また歩くことが楽しくなるような、環境と身体や精神にもやさしいまちを目指します。

将来像③ 支えあい助けあうまち・右京

世代を越えて助け合い、支え合い、人のつながりで地域の未来をつくるまち

安心安全で健康に暮らせる地域に向けて、地域ではさまざまな活動が取り組まれています。そうした活動は、近所づきあいや多様な世代の交流など、お互いが助け合い、支え合うつながりを作り出し、またそれに支えられています。子どもの未来に向けた取組を通じて子育て世代がつながり、またお年寄りから暮らしの知恵を学ぶなど、お互いに見守り支え合うことができる地域づくりが必要になってきています。

そこで、子どもからお年寄りまでの多様な世代が、困ったときにはお互いに支えあい、助け合って暮らし続けることで、一人ひとりが地域で自立して暮らしていける、人に優しいまちを目指します。

IV 区民・事業者・行政の協働で進める右京区のまちづくり

計画の実現にあたっては、先に述べたとおり、地域住民である区民、企業や大学等も含めた事業者、区役所等の行政等が連携・協力し、協働で取り組むことが必要です。

そのために私たち区民は、自らがまちづくりの主体であることを自覚し、まちづくりについての理解を深め、活動に参加する意識を高めて、できることから主体的に取り組んでいくように努めます。

事業者は、地域社会の一員としてまちづくりに理解・協力するように努めます。

行政は、区民や事業者が協働のまちづくりを進めるために必要な情報提供、まちづくりに参加する機会の提供、具体的なまちづくりの取組の支援等を行います。

右京区は、前計画のもとで設置された「右京区まちづくり円卓会議」による取組、また地域に根ざした自治連合会を中心とした地域活動が活発であるとともに、さまざまな市民活動も幅広く展開されていることが特徴です。

こうした点を踏まえ、計画の実現に向けた様々な取組を行っていく上で、以下の点を重視して進めていきます。

○本計画における「まちづくり」とは

本計画では、右京区の将来に向けた取組全般を「まちづくり」という言葉で表しています。区民・事業者・行政が一体となって現在の良いものを生かしながら課題の解決に取り組み、これからのより良いまち、より良い地域をつくっていかうという思いをこめてこの言葉を使っています。

施設整備や基盤整備などを中心としたハード面だけでなく、人と人とのつながりづくりや歴史や文化の継承などのソフト面も含めて「まちづくり」としています。

1 状況に応じて柔軟に運営していく基本計画

(1) 多様な主体、多様な世代がつながり、まちづくりを進める仕組みづくり

右京区の将来像に向けて取組を進めていくにあたっては、その進捗状況を把握しながら広く共有し、そして取組内容の変更・追加等に柔軟に対処していくことが必要となります。そのために、区民・事業者・行政等の関係者が集まり、まちづくりに関する情報交換や協議を行う場を継続的に設けていくことが重要です。

本計画では、前計画のもとで設置された「右京区まちづくり円卓会議」の成果を踏まえて、基本計画策定委員会を母体としながら、新たな区民や事業者が基本計画の運営に関われる「区民会議」を立ち上げます。そこでは、①暮らしの価値観を変えてみる、②地域ごとに特徴ある方向性を考える、③良いところをほめることから始めると

いう3つの考え方を基本姿勢としつつ、さまざまな専門分野の横断・連携を重視して基本計画の実現を図っていきます。

「区民会議」の設置に当たっては、右京区の活発な地域活動を基盤としながら、多様な世代が右京区の将来を共に考え、将来像に向けて実行していくための組織づくりを進めます。

(2) 取組に弾みをつけるリーディングプロジェクト

基本計画を進めるにあたり、手始めにとりかかる取組として、複数のリーディングプロジェクトを設定します。

リーディングプロジェクトは、基本計画推進の初動期に取り組む事業で、取組を通して、まちづくりの盛り上がりや波及効果が期待でき、先導的な役割を担える事業であるものとします。また、将来像の実現に向けた取組テーマごとの取組を、縦割りではなく効果的に連携させていくことを重視します。

本基本計画では、このリーディングプロジェクトを基礎としながら、これまでつながりの少なかった多様な専門分野、多様な主体の連携を促進させていきます。その結果、より効果的な取組の展開が可能になり、また幅広い波及効果を生み出すものと考えます。

(3) 成果を確認しながら、新たな展開を図る運営手法

基本計画の進捗状況を管理する上で、計画に関わる区民・事業者・行政等が進め方や方向性を共有していくことが必要です。計画の進捗管理に関する共通認識をつくっていくために、誰にとってもわかりやすい評価指標と数値目標を設定します。

評価指標と数値目標は、単に期間内に達成すべきノルマという考え方ではなく、区民・事業者・行政等が目標を明確に共有していくためのものであり、取組内容をわかりやすく端的に表現し、かつ協働のよりどころとなるものであることが重要です。

評価指標と数値目標は、リーディングプロジェクトや将来像の実現に向けたテーマについて設定し、計画運営の初期から中期への円滑な展開を図ります。また取組の進展に応じて、評価指標と数値目標を柔軟に見直していくものとします。

2 区民一人ひとりが取り組むまちづくり

(1) 暮らしの中で一人ひとりが取り組むまちづくり

「まちづくり」とはそもそも、区民一人ひとりが地域でのより良い暮らしを考えること、暮らしをより良いものにしていく行いを日々の重ねていくものです。それが目に見えるものになったときに初めて、「まちづくりの成果」として感じられるものです。

右京区の将来に向けたまちづくりは、区民一人ひとりが、自らが主体的に取り組んでいくことが必要です。それは難しいことではなく、日々の生活の中で容易に取り組

めるものであり、また日々の生活に少し気遣いを加えることから始まるものです。例えば、地域の住民同士が毎日あいさつを交わすことも、地域住民のコミュニケーションを円滑にし、コミュニティの活性化につながるまちづくりの大切な一歩といえます。

このように、区民一人ひとりが日々取り組んでいける内容や小さな取組の積み重ねを大事にしながら、計画の実現を図っていきます。

また、一人ひとりの活動が広がっていくためには「まちづくり協議会」や「自治会」といった「場づくり」が大切です。この「場」により、意見を出し合い、実現していくというプロセスが、まちづくりにとって重要です。

(2) いつでも、どこでもできることを積み重ねるまちづくり

まちづくりの主体は、区民・事業者・行政等です。これらの主体は、それぞれ生活者・企業活動・組織運営といった「私的（個別の）立場での活動」と、地域社会の一員としての活動や非営利のボランティア活動などの「公益的立場での活動」を行っています。また公益的活動を行う地域の各種団体や NPO など、特定の目的をもって活動する主体もあります。

区民・事業者・行政等の主体が果たす役割を固定的に考えるのではなく、それぞれの立場でどのような役割を果たすことができるかを常に意識していくことが重要です。

多様な主体が連携したまちづくりを進めていくために、そしてそれぞれの主体がまちづくりにより深く関わるために、それぞれの立場でできることを重視しながら、計画の実現を図っていきます。

公益的活動

(連携：大)



私的活動

(連携：小)

<ul style="list-style-type: none"> 自治連合会、各種団体の活動 NPO などの市民活動 PTA などの活動 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献（CSR） NPO などの市民活動 	<ul style="list-style-type: none"> 行政サービスの提供 公益的活動への支援
多様な地域活動、市民活動		【学区、右京区全体】
<ul style="list-style-type: none"> 町内会活動 近所づきあい 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会活動 近所づきあい 	【町内会、近隣関係】
<ul style="list-style-type: none"> 生活者としての活動 	<ul style="list-style-type: none"> 収益活動、企業活動 	<ul style="list-style-type: none"> 行政組織の運営
区 民	事業者 (企業・大学含む)	行 政

(3) 右京区で取り組まれてきたまちづくりの成果 **【参考資料①】**

まちづくり活動に取り組む際には、まず他の地域で取り組まれている良いところを見つけて、参考にしていくことが有効です。そのためにも、右京区内で取り組まれている様々なまちづくりの取組事例について、情報収集・情報発信を行い、情報交換を進めていくことが重要です。

右京区では、前計画における取組として、サンサ右京が開設し、いつも地域の皆が集まれるような場ができました。また、右京区まちづくり円卓会議も設置され、平成15年度から右京区まちづくり支援制度を発足して地域のまちづくり活動の支援を行い、大きな成果を挙げてきました。またこれらの活動は、右京区民が積み重ねてきた「まちづくり」の大きな成果ともいえます。今後取組を進めるにあたっては、これらの活動も参考にすることができます。

【参考資料①】右京区まちづくり支援制度の支援活動・支援団体

年度	事業名	団体・グループ名	事業概要
H15	木嶋神社の湧き水を復活させる	木嶋神社の湧き水を復活させる会	湧き水を復活させるための地質調査や活動周知のための講演会等を行い、住民の防災意識、環境意識を高める。
H15	広沢自治会連合会有栖川探検総合学習	有栖川を考える会広沢支部	有栖川を区民のふれあいゾーンとするため、新丸太町通の新宮橋に桜を植樹する。河川空間との一体整備に取り組む。
H15	生ごみリサイクル御室花いっぱい運動	京都環境アクションネットワーク	御室小学校を中心に、児童や地域住民がともに環境問題に取り組むため、学校の花壇作り、生ごみ堆肥づくり講習、寄せ植え教室を行う。
H15-16	若陰ハロウィーン祭	京都市農協嵯峨北部支部青年部	右京区の北西部、愛宕山の西麓に位置する若陰地区で、都会生活では味わえないイベントを開催し、広く区民と交流を深めて地域の活性化を目指す。
H15-16	うずまさ生れの映画を見る会	うずまさ映画をみる会	太秦から生まれた映画を紹介上映し、歴史と映画づくりのまちを再認識することで、映画文化のまちづくりを目指す。
H15-16	愛宕参道の路面整備	水尾地域振興委員会	愛宕参道の荒廃が参拝に支障を来すほど著しいため、路面整備を行う。水尾からの登山道を利用いただくことにより、地域の活性化を
H16	民俗芸能を楽しむつどい	嵐山和太鼓クラブ	和太鼓、篠笛(しのぶえ)、鉦(かね)などを使った民俗芸能の演奏を地域住民に知っていただくことにより、地域文化の発展に寄与することを目指す。
H16	右京小学生相撲大会	特定非営利活動法人京都相撲ネットワーク	相撲の盛んな右京区において、小学生を対象とした相撲大会を開催することにより相撲を知るきっかけにするとともに、青少年健全育成、伝統文化継承を目指す。
H17	京北地域における家族農業体験	特定非営利活動法人フロンティア協会	京北地域の休耕地を借り受け、サツマイモの作付けから収穫までを近隣都市住民と地元の方との協働で行うことにより、交流を深める。
H17	地球環境時代に生きる環境保全仲間づくり	梅津まちづくり委員会	地域での環境問題に取り組む人材を育成する養成講座を開催し、講演と体験学習を通して環境保全に寄与するリーダーの育成を目指す。
H17	御室・美山町提携「生ごみリサイクル有機野菜づくり」	京都環境アクションネットワーク	家庭から出る生ごみを堆肥たいひ化し、美山町(現南丹市)の農家と有機野菜の契約栽培を進めることによって、多くの住民がごみ減量、堆肥作りに参加
H17-18	山間地域の花しょうぶ園事業	グループ フラワーライフ	京北下熊田町地区で、獣害により荒廃した花しょうぶ園を再生し、多くの方に鑑賞していただくことにより魅力ある地域づくりを目指す。
H17-18	ふるさと京北活性化事業	NPO法人ふるさと京北絆杉ほこすぎ塾	安全な農産物を提供する朝市の開催や、区内の小中学生を対象にした紙風船やコケ盆栽づくりなどの体験を通して地域住民と交流し
H18	花園情報発信	京きょうー花園ドットコム	インターネットを活用し、花園地域で体育振興会や消防団のお知らせなどを発信するほか、山内一豊ゆかりの地などのマップを作成し、地域コミュニティの活性化を図り、地域の魅力を発信する。
H18	住民と学生が行う市バス停留所「どこいこ化」計画	京都歴史回廊協議会	御室地域の市バス停留所10箇所に、最寄りの観光名所と停留所からの所要時間などを示した「どこいこ板」を掲示、市バスと徒歩での観光を促し、地域の魅力をPRし、交通渋滞の解消と環境保全を目指す。
H18-19	林業促進事業	樹々じゅじゅの会	京北森林公園と京北下熊田町で、都心部の住民と植樹やマイタケの栽培・料理講習会などを行い、都心部の住民と交流を深め、林業の活性化を図る。
H19	第6回西院 MUSIC FESTIVAL 2007	西院ミュージックフェスティバル実行委員会	8月4日・5日に春日神社や西院地域の店など19会場でライブなどを行い、音楽を通して地域の店・人のつながりをつくり、より楽しく、親しみやすいまちを目指す。
H19-20	右京区のふるさとづくり～お城の調査～	特定非営利活動法人フロンティア協会	京北下宇津町で古城の歴史・測量調査、住民へのヒアリングなどを行い、その調査結果と地域の歴史をまとめた「下宇津町誌」を作成し、地域の活性化を図る。
H19-20	愛宕古道街道灯し	京都嵯峨芸術大学「アタゴーズ」	大学と地域住民が制作した行灯を街道に並べて点灯する祭りを8月23日～26日に行い、地域での交流を深め、地域の魅力をPRする。
H19-20	太秦キネマ塾	NPO京都の文化を映像で記録する会	子どもを中心とした塾生に映画制作の技術やノウハウを伝え、塾生が作った映画の上映会を行う活動を通して、映画文化を次代に継承していく。
H20-21	今様・白拍子教室	嵯峨野学芸倶楽部	嵯峨・嵐山地域に緑の深い今様や白拍子を気軽に学べる教室を開催し、教室参加者が「嵐山もみじ祭」などで発表する活動を通して、地域の魅力を再発見し、PRする。
H20-21	「子どもの事故防止と応急手当」普及事業	NPO法人乳幼児の救急法を学ぶ会	乳幼児の命にかかわる事故に備えて、心肺蘇生法などの応急手当を学ぶ実践中心型の講座を開催し、乳幼児の救急法の普及と健全育成を図る。
H21	京区のまちづくり活性プロジェクト	特定非営利活動法人フロンティア協会	右京区内のNPO・NGO団体及び任意活動団体の調査研究を行い、地域力モデルを提示し、持続可能な横断的連携組織の構築を図る。
H21	親と子のコミュニケーションスペースびっころたいむ	NPO法人子育ては親育てみのりのもり劇場	子育て中のお母さん達が気軽に集い、情報交換できるスペースを提供し、地域の子育てを支援する。
H21	京北・「藁(わら)つと納豆」伝承プロジェクト	立命館大学産業社会学部「京北プロジェクト」	納豆発祥の地といわれる京北地域で「藁(わら)つと納豆」を通して、市民と共に農作業や製造工程を学び、「食文化伝承」に寄与することを目的とする。

V 将来像の実現するための取組テーマ

右京区の目指す3つの将来像を実現するために、以下の取組テーマを設定します。そしてそれぞれのテーマごとに具体的な取組を進めていきます。

前述したリーディングプロジェクトは、これら3つの取組テーマをまたがるように設定しており、計画全体を先導するもの、3つのテーマを横断するもの、そしてさまざまな専門分野の取組の連携を促進させるものとしての役割を果たします。

(1) 豊かな自然と歴史文化を活かしたまちづくり

「豊かな自然・文化を受け継ぐまち・右京」を実現するために、わたしたち区民は豊かな自然資源と歴史文化資源等とともに、それらと一体となって営まれてきた暮らしや産業を守り育て、次世代に継承していく責任を負っています。

これらの豊富な資源が、右京区を有数の観光地にしている一方で、観光地に向かう自動車の集中による交通渋滞や居住環境悪化等を引き起こしています。自然環境・歴史・文化を次世代に継承していくためには、右京区の宝物を改めて見つめ直し、自然・歴史・景観と一体となった新しいライフスタイルや産業の育成も不可欠です。

これらの課題を解消するために、豊かな自然環境を支えている農林業等を含めた地産地消による地場産業の振興、歩く観光の普及振興等、従来の価値観を転換した取組が必要であり、こうした価値観の転換を通して豊かな自然と歴史文化を生かした、それぞれの地域の個性が光るまちづくりを推進していきます。

このまちづくりの方向性に関する区民・事業者・行政の役割分担は、概ね以下の通りです。

【区民・事業者・行政の役割分担】

	区 民	事業者	行 政
役割分担	地場産業の担い、また右京の自然資源と歴史文化資源を次世代に伝える主体として、取り組みます。	地域の資源を活かし、歩く観光等を推進する上で有効な事業展開を図ります。	地域の資源を次世代に伝えることや、歩く観光の振興についての意識啓発を図るとともに、区民や事業者の取組を支援します。

【評価指標と数値目標】

評価指標	数値目標
※検討中	※検討中

(2) 魅力ある都市環境を備えたまちづくり

「楽しく歩けるまち・右京」を実現するためには、誰もが安心安全に暮らせる道路等の都市基盤整備や施設立地、公共交通体系の整備等だけでなく、わたしたち区民一人ひとりが暮らし方を考えていくことも不可欠です。

市街地においては、住宅地への通過交通の進入を抑制し、またユニバーサルデザインに基づく歩きやすい生活道路を確保するとともに、商店街等の歩いて行ける範囲にある商業機能や生活サービス機能、緑豊かな憩いの公園、遠方に行くのも便利な公共交通網などの充実に向けて取り組めます。山間部においては、集落と市街地を結ぶ幹線道路を整備すること等により、日常的に暮らしやすい魅力ある都市環境と居住環境を備えたまちづくりに取り組んでいきます。

こうした取組に加え、クルマに必要以上に頼らず、健康的に歩いて生活でき、また歩くことが楽しくなるような、環境と身体と精神にやさしいまちを目指したまちづくりに向けて、価値観を少し変えていくような取組を進めていきます。

このまちづくりの方向性に関する区民・事業者・行政の役割分担は、概ね以下の通りです。

【区民・事業者・行政の役割分担】

	区 民	事業者	行 政
役割分担	節度あるクルマの利用と、公共交通機関の利用に努める等、地域に根付いた暮らしに努めます。	公共交通網の利便性の向上や、クルマを利用しない人の利便性の向上に資するような事業展開を図ります。	道路・公園等の必要な都市基盤整備を進め、バランスの良い交通体系の実現を図ります。

【評価指標と数値目標】

評価指標	数値目標
※検討中	※検討中

(3) 地域活動が盛んな安心安全のまちづくり

「支えあい助け合うまち・右京」を実現するためには、子どもや高齢者をはじめ多様な世代が見守り支え合うことを通じて、お互いに地域で自立して暮らしていけるまちをつくっていくことが必要です。そのためには、私たち区民の日々の生活を支える地域活動を活性化することが、支え合い助け合うまちを実現するために重要になります。

そうしたまちづくりを継続的に実現していくためには、これまで地域で培ってきた住民相互のつながりの深さを活かしながら、まちづくりの新たな担い手やリーダーを育成する取組や、子どもたちの世代に地域の歴史や魅力を伝えていく取組も必要です。わたしたち区民は、子どもの将来に向けた取組を通じて多様な世代がつながり合い、またお互いの個性を尊重していくような、地域活動が盛んな安心安全なまちづくりに

向けて取り組んでいきます。

このまちづくりの方向性に関する区民・事業者・行政の役割分担は、概ね以下の通りです。

【区民・事業者・行政の役割分担】

	区 民	事業者	行 政
役割 分 担	日々の地域活動やまちづくり活動に継続的に取り組み、お互いに見守りながら地域のつながりの輪を拡げるよう努めます。	誰もが地域で自立して暮らせるように、福祉サービスや生活サービスを向上させるような事業展開を図ります。	区民や事業者と協働・協力しながら福祉行政を推進するとともに、区民や事業者の取組の支援を行います。

【評価指標と数値目標】

評価指標	数値目標
※検討中	※検討中

VI まちづくりに弾みをつけるリーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトは、まず最初に取り組むことで、他の取組を牽引していきけるような先導的な役割を担える事業です。言い換えると、取り組みやすさと課題の重要性のバランスがとれていること、比較的短期間で成果が期待できること、取組を通して関係者の盛り上がりや新しい仲間を増やすなど、関連分野や今後の取組への波及効果が期待できる事業です。

また、リーディングプロジェクトを進めるには、多様な主体の連携を促進させ、幅広い専門分野に波及効果をもたらすために、取組テーマを横断する柔軟な視点を持つことも重要です。

なお、リーディングプロジェクトは、計画初期に実行する事業であることから、その効果を測るための評価指標と目標数値を設定します。

1 取組テーマを横断する重要な視点

本計画策定にあたり、右京区の将来に向けたまちづくりに生かせる資源や取り組んでいくべき課題を整理し、右京区の将来像の実現に向けた取組テーマを設定しました。その中で、3つの取組テーマに共通する視点も抽出されました。

本計画では、こうした視点を「取組テーマを横断する重要な視点」と位置づけます。本計画では、取組テーマごとに具体的な取組を進めますが、これらの視点は3つの取組テーマを横断的かつ効果的につなぐとともに、実際に取組を進める際の留意点（キーワード）としていきます。

（1）子どもたちや次世代を育む人づくり

日常生活を支える地域活動や地場産業においても、これまでの担い手やリーダーの高齢化や固定化等が課題となってきたおり、新たな担い手づくり、次世代を支える子どもたちへの継承が重要な課題となってきました。

特に子どもをキーワードとした地域のつながりづくりなどを通じて、各地域での世代間交流を促進させ、子育て世代の地域活動への参加を促すことで、地域コミュニティをより魅力的なものへと活性化させていく視点が重要です。

（2）地域の産業を育てる仕組みづくり

右京区には、豊かな自然環境を支えてきた農林業、11区の中で製造品出荷額が第2位の工業、豊かな歴史文化資源を背景とした観光産業、伝統ある映画とその関連産業等、それぞれの地域で特徴ある産業が根付いています。しかし一方で、社会構造の変化や、後継者不足等により、厳しい経営環境に置かれていることも様々な産業で共通の課題となっています。今後は、価値観の変化に対応した新たな視点で、右京区民や観光客等のニーズの掘り起こしを行い、地域の産業を育てていく仕組みづくりという視点が重要です。

(3) 特徴ある資源を活かした右京ライフの実現

右京区が抱える課題の解決のためには、新しい価値観に基づく、魅力的なライフスタイルの提案が必要です。

例えば、地域資源発掘、地球環境保全、健康づくり、産業振興、観光振興等の幅広い分野について、「地産地消」やクルマより「歩く」を重視する価値観で考えていくことで、暮らしに関わる課題として取り組んでいくことができます。また、ライフスタイルを転換するという視点から、右京区の豊富な地域資源と日々の暮らしの関わりを深めていくことでわたしたち右京区民ならではの取組を進めていくことができます。

こうした新しい価値観に基づく右京区の豊富な地域資源を活用した右京らしい魅力的なライフスタイル「右京ライフ」を考えて取り組んでいくという視点が重要です。

(4) 身近な地域で多様な世代が安心して暮らせるまちづくり

各地域で高齢化が進み、また子育て環境の向上が求められる中、子どもや高齢者を含め多様な世代が住みやすく、安心して暮らせるまちづくりへの関心が高まっており、ハード・ソフト両面での取組が求められています。

ハード面では、住宅地への通過交通の進入が抑制されて、歩きやすい生活道路が確保されていること、日常生活では歩いて行ける範囲に商店街等の商業機能や生活サービス機能が立地すること、遠方に行く場合でも公共交通網が充実し、自転車・鉄道やバス・歩く・自動車を適切に組み合わせて移動できること等があげられます。また、ソフト面では、子どもや高齢者とともに、多様な世代が地域とつながりながら、地域住民がお互いに見守り支え合うことで互いに自立して暮らすことができる地域づくりを行うという視点が重要です。

2 4つのリーディングプロジェクト

(1) 次世代につながる地域に根付いた右京ライフづくりプロジェクト

右京区は、北部山間部から山麓部にかけての森林や農地を中心に、豊かな自然環境に恵まれた地域です。そうした豊かな自然環境を生かした林業や農業が、地域の暮らしを支えてきました。こうした自然環境と暮らしとの密接な関わりによって、右京ならではの美しい風景は創られ、地域の風土や気候を生かした暮らし方が受け継がれてきました。

しかし林業の低迷や少子化等によって、林業や農業等の後継者が減少し、維持管理が行き届かない森林や農地が増加しています。その結果、自然環境と暮らしとの密接なかかわりが失われ、良好な景観も失われつつあります。

豊かな自然環境や美しい風景を維持継承し、また環境と共生した地域に根付いた暮らしの文化を伝え、また地域産材の活用や地産地消の促進などの産業の振興、環境と共生した暮らしの普及啓発とともに、子どもを中心とした次世代への継承を進めていくため、以下のような事業を企画・実施します。また、その企画・実施にあたっては、「次世代につながる地域に根付いた右京ライフプロジェクト会議」を立ち上げます。

- ペレットなどの地域産材の活用に向けた普及啓発、右京区内の地産地消の取組の促進
- 子どもを中心とした次世代の担い手育成に向けた「右京の環境・暮らし体験学習」を子どもだけでなく幅広い世代間交流も意図した環境教育の機会として実施

【評価指標と数値目標】

評価指標	数値目標
※検討中	※検討中

(2) 地域の魅力・発信プロジェクト

右京区には、歴史都市京都を代表するような歴史文化資源等が数多く分布しています。平安遷都以前から渡来人が住み栄えていた地域であることから、多様な歴史文化の蓄積があり、市井の至る所にまだ知られていない資源がたくさん埋もれていると考えられます。また、地域住民にしか知られていない伝統的な生活文化や地場産業等も数多くあり、こうした潜在的な資源も今後地域の魅力を高める上で重要な役割を果た

すことも考えられます。

右京区のそれぞれの地域の隠れた資源や魅力を再発見し、区民や来訪者に広く発信していくために、以下のような事業を企画・実施します。また、その企画・実施にあたっては、「地域の魅力・発信プロジェクト会議」を立ち上げます。

- 地域の隠れた資源や伝統的な生活文化を地域外に発信する「地域の魅力体験・学習ツアー」の工夫を凝らした企画・実施
- 右京区全体の観光ガイドとして「右京の魅力発見ガイドマップ」の作成と年度経過を踏まえた更新版の作成

【評価指標と数値目標】

評価指標	数値目標
※検討中	※検討中

（３）楽しく歩けるまち・右京を考えるプロジェクト

右京区では、市街地内の幹線道路が狭く、山間部の集落と市街地を結ぶ幹線道路の整備が遅れているうえに、観光シーズンに大量の自動車交通が集中して、深刻な交通問題を引き起こしています。しかし、市の財政面からも、関係権利者の合意形成の面からも、今後10年間に整備できる道路は限られてくると考えられます。

一方、人々の価値観やライフスタイルの変化、環境問題が重視されるような社会状況の変化を踏まえると、これからの時代は、これまでのようなクルマ中心の交通体系から大きく転換して、公共交通や徒歩・自転車交通を中心とした総合的な交通体系を考えていくことも必要な時代になってきていると言えます。それは、普段の暮らしだけでなく、観光も含めた幅広い視点から「楽しく歩けるまち・右京」を考えていく必要があるといえます。

そこで、観光客も含めた全ての人にとって「楽しく歩けるまち・右京」であるために、以下のような事業を企画・実施します。また、その企画・実施にあたっては、「楽しく歩けるまち・右京を考えるプロジェクト会議」を立ち上げます。

- 観光や暮らしも含めた今後の「楽しく歩けるまち・右京」を考える機会を提供するために、「楽しく歩けるまち・右京を考える意見交換会」を開催
- （平成19年度から南太秦地域、宇多野地域等で取り組まれている）地域にふさわしい交通のあり方を考える（モビリティ・マネジメント）取組を継続実施

【評価指標と数値目標】

評価指標	数値目標
※検討中	※検討中

(4) 多様な世代が安心して暮らせるまちプロジェクト

全国的に高齢化が進む中、右京区も同じく高齢者だけの世帯や一人暮らしの高齢者も増えており、十分な支えがなく、健康の問題をはじめとして、不安な暮らしを送っている方も少なくありません。特に、地域と関わりの薄い高齢者の「孤独死」など、高齢者を取り巻く環境は平穏ではありません。

これまで、地域社会のつながりがセーフティネットとして機能してきました。右京区では、民生委員や全ての学区ごとに組織されている学区社会福祉協議会をはじめ、各種団体やNPOが、全市にも誇れる幅広い取組を行ってきました。しかし、人口の流動化や核家族化の進行等により、そうしたサポートが届かない高齢者も数多くいます。またこうした活動を支える担い手が不足していることも事実です。

このような課題は、高齢者を取り巻く課題としてだけでなく、子どもを育む地域のつながりや若年層と地域のつながりの希薄化という多様な世代の暮らしに関わる課題にも関係しています。そこで、地域と関わりの薄い高齢者の孤立化と孤独死を防止するとともに、地域住民相互のつながりを深めていくこと、そしてこれからの地域活動の担い手を増やしていくために、以下のような事業を企画・実施します。また、その企画・実施にあたっては、「誰もが安心して暮らせるまちプロジェクト会議」を立ち上げます。

- 右京区のそれぞれの地域活動、地域の暮らしの情報発信ツールとしての「右京の安心・暮らしガイドマップ」の作成と年度経過を踏まえた更新版の作成
- 地域コミュニティのつながりづくり、安心安全に暮らせる地域づくりに向けた学区ごとの個性を生かした取組の実施
(平成21年度から南太秦地域で取り組まれているサンデーモーニング等の取組などを他地域でも実施)。

【評価指標と数値目標】

評価指標	数値目標
※検討中	※検討中

VII 取組テーマと具体的な取組内容

1 豊かな自然と歴史文化を活かしたまちづくり

(1) 右京の歴史や文化を活かし、継承していくまちづくり

右京区で受け継がれてきた自然・歴史・文化を次世代に継承していくためには、住民自らが右京区の持つ自然・歴史・文化に興味を持ち、それらの持つ価値を再認識することで地域に自信と誇りを持ち、愛着を高めていくことが不可欠です。そのために、外部の専門家の協力を得ながら、地域住民自らが地域の宝物を再確認し、さらに理解を深めていく取組を進めます。

また地域の魅力を地域住民自身が発信していく取組も進めることで、地域の宝物を将来に受け継いでいく意欲を高め、また地域で暮らし続けていく誇りと自信を深めていきます。

このような取組を行うことで、地域住民の生活や文化はますます豊かになり、地域外の人々を今まで以上に惹きつけることになり、地域の活力の向上につながっていくこととなります。

■具体的な取組内容（案）■

- ① 専門家等との連携により地域住民が地域資源を発掘する取組の推進
- ② 発掘した地域資源をPRする取組の推進

(2) 地域の個性に応じた景観づくり

右京区には、それぞれの地域において、個性豊かなまち並みや集落、眺望などの景観が数多く存在しており、重要な地域資源となっています。こうした個性ある景観は、農林業などの地域の産業と密接に関わるとともに、社寺や景勝地などとの歴史的文化的な関わりの中で形成されてきました。また集落ぐるみの維持管理といった地域の生活文化との関わりの中で受け継がれてきました。

京都市では平成19年度に新景観政策を導入し、右京区では、有名な社寺・史跡や景勝地周辺については、景観保全のために厳しい規制がかけられましたが、その他の市街地の多くは、比較的緩やかな規制の網がかけられているにすぎず、また京北地域についても、何の規制やルールがない状況となっています。

そこで、右京区独自の個性的な景観を次世代に受け継いでいくために、現状を保全するだけでなく、それを支えている地域の産業や暮らしの将来も含めて、地域の将来

像と、それにあった景観を守るルールを、個々の地域で住民自らが検討し、決めていく取組を進めていきます。

■具体的な取組内容（案）■

- ①地域住民がまちの将来像を考える仕組みづくり
- ②地域の個性に合わせた景観ルールづくりの取組の推進

（３）右京ならではの観光への転換

京都の中でも有数の観光地である右京区では、観光シーズンになると、嵐山地域を中心に数多くの観光客が来訪します。

現在は、幹線道路への自動車交通の集中などの課題を抱えていますが、地域の歴史や文化にじっくり触れる体験型や滞在型の観光へのニーズが高まっており、CO₂削減等の環境対策が重視される社会状況とあわせて、公共交通や徒歩・自転車交通を中心とした「歩く観光」の需要が高まることが予想されます。そこで、歩いて楽しんでもらえる様々な仕掛けや観光メニュー、観光地に集中する車を抑制して歩きやすい環境をつくる方策等について具体的に検討する取組を進めていきます。

また、こうした右京区に滞在し、地域の歴史や文化をじっくり体験してもらうための観光メニューづくりを進めていくにあたって、地域ごとに観光客の受け入れ方や、観光のスタイルなど、地域住民と事業者などが一体となって、方向性や具体化の方法を検討していくような取組を進めていきます。こうした取組を通じて、地域住民自身が地域の歴史や文化を深く理解し、地域の活性化へとつなげていきます。

■具体的な取組内容（案）■

- ①地域住民と民間事業者等が将来の観光のあり方を考える取組の推進
- ②歩く観光を支える観光資源の発掘や観光メニューづくりの推進
- ③右京の魅力を体感できる質の高い滞在型観光の推進

（４）右京独自の資源を活かした産業振興の推進

右京区には、地域の文化や景観と密接に関連する様々な地場産業が存在します。山林や農地等の自然環境を今日まで受け継いできた農林業、日本の映画文化を長く支えてきた映画づくりや映画・映像に関連する伝統技術などがあります。さらに、右京区は市内でも製造品出荷額が大きい地域であり、世界有数の先端企業から、規模は小さくても世界水準の技術を持つ中小製造業等、様々の企業が立地しており、これらの様々な地場の産業が区民の生活と文化を支えています。

しかし、こういった地場産業の中でも、農林業や、映画産業については就業人口の

減少や後継者不足といった課題を抱えており、これらの地場産業を活性化と次世代への継承を通じて、右京の個性ある風景や文化を支えていく取組を進めます。

特に地産地消という観点から、様々な地場産品を暮らしの中に取り入れたライフスタイルの確立に努め、「右京らしい生活」という新たなライフスタイルの提案を進めていきます。農林業の振興等は、単に右京区にとらわれず、全市や全国レベルで振興策に取り組むべき内容ですが、右京区において、区民全体で、これらの地場産業の振興に役立つ取組を進めていきます。

■具体的な取組内容（案）■

- ①地域に根付いた地産地消の取組の推進
- ②生活に密着した加工品生産の推進
- ③「右京らしい生活」というライフスタイルのPRの推進
- ④右京らしい地場産業の振興

2 魅力ある都市環境を備えたまちづくり

(1) まちを支える交通体系の実現

現在、右京区のみならず幅広い地域において、自動車を運転しない高齢者層の増加や自動車を所有しない若年層の増加といった人々の価値観やライフスタイルの変化、CO₂削減等の環境対策が重視される社会状況などから、自動車中心の交通体系から公共交通や徒歩・自転車交通を中心とした交通システムへの転換が求められています。

また、京都の中でも有数の観光地である右京区では、観光シーズンにおける幹線道路網への自動車交通の集中により、結果として観光来訪者も地域住民も交通渋滞に巻き込まれるという悪循環に陥っています。今後は「歩く観光」の需要がさらに高まることが予想され、そうした観光を支える自動車の集中を抑制して歩きやすい環境をつくる方策を検討していくことが重要です。

そこで、観光客だけでなく高齢者や子どもなど、誰もが「歩きやすいまち」を大きなテーマとして位置づけ、幹線道路や身近な生活道路の歩きやすさ、歩く観光や安心して出かけられる公共交通システムの検討を進め、誰でも安心して散策や観光、普段の外出ができるまちづくりを目指します。

■具体的な取組内容（案）■

- ①地域に応じた総合的な交通政策の実現
- ②歩きやすい生活道路づくり
- ③まちの骨格として必要な幹線道路の整備推進
- ④使いやすい公共交通ネットワークの形成
- ⑤観光地へ集中する自動車交通の転換と分散
- ⑥自転車利用を促進する取組の推進

(2) 身近な環境の魅力向上とよりよい生活環境づくり

区民にとって暮らしやすいまちとは、日常の生活の中で、身近な所に緑豊かな憩える空間や、歩いてゆける範囲の所で日常的に必要な生活サービスを手に入れることができる施設が揃っていること等があげられます。

例えば身近な公園は、地域住民の憩いとふれあいの場であり、緊急時には一次避難場所や防火帯としての機能も果たす、重要なオープンスペースです。また、身近な地域の商店街や商業拠点も、地域住民同士の交流と情報交換の場であり、自動車を利用できない高齢者等にとっては、重要な生活拠点といえます。こうした生活拠点を、より身近なものに、そしてより区民に密着したものへと展開させていく取組を進めます。

そして、これらの身近で魅力的な環境を継続的に維持していくためには、地域住民

による取組と協力が必要であり、地域住民自らの手で身近な環境の魅力向上を図っていきます。

また平成 20 年度には、交通や文化発信の拠点としてのサンサ右京が開設されましたが、今後こうした地域の大規模な拠点が整備される際には、右京区だけでなく次代の京都を支え、まちを再生する交流拠点や次世代への継承を支えるような拠点としての役割を盛り込んだものとなるよう働きかけていきます。

■具体的な取組内容（案）■

- ①身近な公園の整備と維持管理の促進
- ②区民の生活を支える商店街や商業拠点の振興
- ③地域の清掃や維持管理活動の充実
- ④総合的な環境整備に向けた拠点整備の推進

3 地域活動が盛んな安心安全のまちづくり

(1) 多様な世代が地域で自立して暮らせるまちづくり

地域社会で一人ひとりが安心安全に、楽しく暮らすためには、お互いがつながり合い、それぞれができることを持ち寄り支え合いながら、結果としてそれぞれが自立した暮らしができるようになるという視点が大切です。そのために、高齢者や子ども、障がいを持つ方など、地域に暮らす多様な世代がつながり合う場を広げていきます。

また右京区では、高齢者だけの世帯や一人暮らしの高齢者も増えており、十分な支えがなく、不安な暮らしを送っている方も少なくありません。民生委員や学区社会福祉協議会をはじめ、各種団体やNPOが幅広いサポートを行って来ましたが、そうした支援が届いていない高齢者も数多くいることから、社会の変化や、それぞれの地域が抱える課題に応じたきめ細かい取組を広げていく取組を進めます。

また一人ひとりが健康で暮らせるよう、スポーツや健康づくりを進めていくことも重要です。右京の豊かな自然環境を生かしたハイキングや散策などとともに、西京極総合運動公園などを積極的に活用していく取組を進めます。

こうした取組を進めながら、普段の生活でのお互いの気遣いや近所づきあいを深め、多様な世代が暮らしやすい環境づくりを進めます。

■具体的な取組内容（案）■

- ①世代を超えて人々が地域とつながれる場づくり
- ②高齢者等を見守り支える地域ネットワークづくり
- ③多様な世代が暮らしやすい環境づくり
- ④右京区の自然環境や整った施設を生かした健康づくりの推進

(2) 地域住民相互の関係づくり（次世代への継承）

現在、建売住宅開発やマンション建設などにより新たな住民が移り住む中で、以前から住む人々と移り住んできた人々の間の関係性がすぐには生まれにくく、地域住民相互の関係性が薄れているという課題が右京区においても見られます。

このような状況に対して、「子育て」を中心とした地域住民のつながりづくり、つまり「地域で子どもを育くむ」という視点を中心に、新たに地域で暮らすようになった住民と従来から暮らし続けている住民のつながりづくりを進めていきます。

学校の諸活動を介した親同士のつながりや、町内で営まれる地蔵盆の取組など子育てを通じて親同士が知り合い、子育ての喜びや悩みを共有することから、さらには健やかな子どもの成長を願った地域ぐるみの協働の取組へとつなげていきます。同時に、こうした取組を通じて、コミュニティを若い次世代へ継承していくことにもつなげていきます。

また現在、安心安全に暮らせる地域づくりは大きなテーマですが、防犯、防災、交通安全など、地域住民による支え合いを基盤とした「自助」「共助」を強めていくことが重要です。地域の「安全力」を高めるような取組を推進することで、住民相互の関係性を紡ぎなおし、コミュニティの絆を強めていきます。

■具体的な取組内容（案）■

- ①子どもの育みを中心とした地域コミュニティの活性化
- ②防犯・防災・交通安全を通じた地域コミュニティの活性化

（３）地域活動の活性化，担い手づくり

右京区では、住民自治を基盤とした地域活動がしっかりと受け継がれています。しかし一方で、担い手の高齢化や固定化なども見られることから、積み重ねてきた活動の経験や知恵を次世代に伝え、幅広い住民の参加を促進していくことが多くの地域で課題となっています。そこで、地域活動を幅広い地域住民に知っていただくために、情報発信の取組を進めます。そして情報発信の取組とともに、PTA などの子育て世代を中心としたこれからの地域活動を担うことのできる人材を確保するために、積極的に地域活動に関わってもらうための働きかけを行います。

また、地域の課題が多面的になり、人々の価値観が多様化する中で活動を進めていくためには、様々な立場の意見を調整する能力や、専門的なテーマに関する知識を必要とする場面も今後ますます増えていくと考えられます。そうした状況に対応するために、地域住民はもとより、NPOやボランティアなど幅広い人材の参画を得ながら、開かれた地域活動を進めていきます。

■具体的な取組内容（案）■

- ①地域活動情報の発信
- ②次代の活動の担い手づくり
- ③地域住民とボランティア，NPOなどとの連携